

資料番号	4
------	---

令和5年2月6日 教育委員会事務局 秘書広報室 担当者 室長 糸崎 内線 4930
--

令和4年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の受賞者について

1 要旨

令和4年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の受賞者を，別紙のとおり決定した。

2 表彰の趣旨

学校教育，社会教育，体育・スポーツ，地域文化，教育行政のそれぞれの分野において，教育賞は功績が特に顕著なもの，教育奨励賞は成果等が他の模範として推奨できるものを県教育委員会が表彰し，県教育の振興・発展に資する。

3 受賞者（別紙のとおり）

広島県教育賞	個人	11名	団体	—
広島県教育奨励賞	個人	16名	団体	7団体

4 その他

表彰式は，令和5年3月3日（金）15:00～，県庁本館6階講堂で実施する。

広島県教育賞及び広島県教育奨励賞について

区 分	広 島 県 教 育 賞	広 島 県 教 育 奨 励 賞
創設年度	昭和 44 年	昭和 59 年
根拠規定	広島県教育委員会表彰規則 第 2 条第 2 号	広島県教育委員会表彰規則 第 2 条第 3 号
対 象 (規則)	学校教育の充実振興に貢献し、 又は社会教育、体育、スポーツ、 地域文化若しくは教育行政等の 領域を通して地域社会の発展 充実に貢献し、その功績が特に 顕著であると認められるもの	学習活動、教育活動、研究活動 又は社会教育活動等において、 その成果などが他の模範として 推奨するに足ると認められるもの
分 野	学校教育，社会教育，体育・スポーツ，地域文化，教育行政	
選考基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の教育の充実振興に貢献したもの ・ 社会教育活動を通して地域社会の発展充実に貢献したもの ・ 体育・スポーツ活動を通して地域社会の発展充実に貢献したもの ・ 文化活動を通して地域社会の発展充実に貢献したもの ・ 教育行政の推進を通して地域社会の発展充実に貢献したもの 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人 満 55 歳以上の者 (令和 5 年 3 月 31 日現在) ○ 団体 原則として 20 年以上の活動歴 があるもの。 (令和 5 年 3 月 31 日現在) <p>※ 教育奨励賞受賞者にあつては、 受賞年度から起算して 3 年度 を経過していること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人 満 55 歳未満の者 (令和 5 年 3 月 31 日現在) ○ 団体 特に活動歴は問わないが、「奨 励」の趣旨を踏まえ、今後の活 動が期待できるものとする。 ○ 最近の活動・取組で上げた具体 の成果に着目して選考する。
	<p>(留意点)</p> <p>いずれの表彰においても、同一の功績により、勲章、賜杯、褒賞、 大臣表彰又は知事表彰を受けているものは対象外とする。</p>	

令和4年度広島県教育賞受賞者

○個人

(年齢は令和4年12月21日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	さだむね ゆり 定 宗 里 (59歳)	庄原市立 庄原小学校 校長 (庄原市)	<p>「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」指定地域の校長として、地域や産業界との連携によるキャリア教育に取り組み、児童が自ら考え課題解決する力を育成した。</p> <p>また、「広島県生徒指導サポート実践校」の指定を受け、生徒指導體制を確立し、多面的・多角的な児童理解に努める職員集団を構築した。「開かれた学級経営」の実現及び児童の主体的な「絆づくり」の推進、個に寄り添う指導・支援の充実を行い、生徒指導上の諸課題の未然防止・早期発見・再発防止に努めた。</p> <p>庄原市小学校長会会長を務め、各主任等を中心とした組織的で先進的な研究を広く発信し、本県全体の学校教育の充実と発展に貢献した。</p>
	ふじかわ てる ひこ 藤 川 照 彦 (60歳)	広島市立 幟町小学校 校長 (広島市)	<p>平成31年度、令和2年度には、広島市「体力向上推進校」の研究指定を受け、中・四国小学校体育研究大会で研究発表を行い、その成果を普及するなど、広島市における児童の体力の向上及び体育科教育の充実に尽力した。</p> <p>庚午小学校在籍時の平成27、28年度には、広島県生徒指導実践指定校の校長として、特別活動を通じて児童の主体的な活動の場を積極的に取り入れた指導等を推進し、児童の連帯感や達成感を育成し、生徒指導上の諸課題の未然防止、再発防止に努めた。</p> <p>広島市小学校長会会長を務め、豊富な見識と実践を生かして会の運営を行い、各小学校の学校経営の向上及び人材育成を中心に広島市の小学校教育の充実と発展に貢献した。</p>
	きたむら よう こ 北 村 洋 子 (60歳)	竹原市立 賀茂川中学校 校長 (竹原市)	<p>忠海小中学校では、平成28年度から2年間、広島県道徳教育改善充実総合対策事業の指定校として道徳教育の研究を積み上げ、平成30年度には広島県教育研究大会道徳部会の会場校として実践を公開し、小中一貫校の強みを生かした先進的実践事例を県内に発信した。</p> <p>賀茂川中学校では、学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとして学校と家庭・地域が一体となった教育活動を具現化し、グローバルな視点を持ちながら、ふるさと「賀茂川」を愛し地域貢献できる生徒の育成に尽力している。</p> <p>また、「話し合い活動を主軸とした生徒の自発的・自治的活動」に焦点を当てた特別活動や総合的な学習の時間を中核に、生徒の主体的な学びを生み出すキャリア教育を推進した。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	たなか ゆう じ 田 中 祐 二 (60歳)	江田島市立 能美中学校 校長 (江田島市)	<p>大柿中学校では、学力の課題を解決するための実践的な研究を進め、主体性・表現力・援助要請の肯定的自己評価が高まる等の成果を上げた。</p> <p>また、校内に不登校等生徒の支援を行うSSR（スペシャルサポートルーム）を設置し、不登校等生徒の社会的自立に向けた支援の充実を図るとともに、不登校の未然防止に向けて学校全体で取り組む体制づくりを積極的に進めた。</p> <p>能美中学校では、探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の指定校として、校区の小学校と連携を図りながら、PBL（課題解決型学習）の考え方を参考にしたカリキュラムの質的向上に取り組んでいる。</p> <p>広島県公立中学校長会及び広島県公立学校校長会連合会の会長を務め、県全体の中学校教育の充実と発展に寄与した。</p>
	おおばやし ひで のり 大 林 秀 則 (60歳)	広島県立 広島国泰寺高等学校 校長 (広島市)	<p>文部科学省指定事業WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業における事業拠点校の校長として、教職員をまとめ、文理融合科目の開発・実施、総合的な探究の時間等の改善に努めるとともに、連携校や共同実施校、関係機関等と連携し、高校生国際会議を成功に導いた。</p> <p>また、生徒の資質・能力を最大限に伸ばすため、組織的な進路指導体制を構築するとともに、内外リソースを活用しながらカリキュラム・マネジメントの充実に取り組んだことにより、生徒の主体的な活動が活性化するとともに、進路実績においても成果を上げた。</p> <p>広島県公立高等学校長協会会長として、コロナ禍での難しい対応が求められる中、県教育委員会と密に連携し、強いリーダーシップのもと、適切な対応により、校長協会を牽引している。</p>
社 会 教 育	きよはら ひで とも 清 原 秀 友 (68歳)	東広島市 社会教育委員会議 議長 (東広島市)	<p>平成15年から東広島市社会教育委員を務め、通算16年以上にわたり、社会教育委員会議議長として委員の意見を取りまとめ、指導・助言をするなど、会議の円滑な運営に貢献している。</p> <p>東広島市生涯学習推進会議の委員として、東広島市の社会教育の推進に寄与した。</p> <p>また、広島県社会教育委員連絡協議会で理事を務め、県全体の社会教育推進に貢献している。</p> <p>東広島市青少年問題協議会委員、青少年育成東広島市民会議監事なども務め、市民を対象とした各種啓発活動への参加など、市内の青少年健全育成の推進に深く携わっている。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
社会 教育	橋 もと 貢 (73歳)	ボーイスカウト 広島県連盟 理事長 (広島市)	<p>広島第30団発団時から団委員長に就任し、約44年間、広島第30団の取りまとめ及びボーイ隊のスカウトに対する指導、教育を進め、団の育成発展に務めている。</p> <p>また、平成4年から広島地区の推薦により広島地区連絡協議会地区副委員長に就任し、委員長を補佐するとともに、広島地区のスカウト教育の活性化等を大いに推し進めた。</p> <p>その他にも、日本連盟が4年毎に開催する日本スカウトジャンボリーに平成2年から現在まで欠かさず奉仕員として参加し、参加スカウトのために真摯に活動を行っている。</p> <p>平成23年からボーイスカウト広島県連盟理事に就任し、スカウト募集について指導・助言を行い、平成26年からは、ボーイスカウト広島県連盟の理事長に就任し、理事会をとりまとめ、広島県内スカウト教育の一層の充実とスカウト活動の発展に大きく寄与した。</p>
	三 戸 初 人 (61歳)	広島県子ども会連合会 副会長 (呉市)	<p>平成19年から広島県子ども会連合会副会長に就任し、3代の会長の下、15年にわたり副会長として会長を支えるとともに、財務担当として適正な会計業務を行っており、平成27年には、前年度の余剰金を活用し、新しい事業として「子ども会安全啓発指導者養成講習会」を開催し現在も継続事業として実施されている。</p> <p>また、「市町子ども会活動補助金事業」において、各地区から申請の事業内容について調査ヒアリングを行い、助成金額を増やす見直しを行うなど、地域の活動の活性化に努めている他、広島県子ども会連合会の一般社団法人への移行に向けた複雑な財務手続の取りまとめなどを通して組織変更に尽力し、適切な組織運営に寄与した。</p> <p>平成15年から呉市子ども会連合会の会長として、「呉子ども祭」の実行委員長を務め、衰退しつつあった祭を大幅に改革するなど、子ども会を活性化させた。</p>
	村 せ 祐 治 (81歳)	世羅町 社会教育委員会 議長 (世羅町)	<p>平成17年から、世羅町社会教育委員として社会教育行政の推進に尽力している。平成23年からは世羅町社会教育委員会議長として、委員の意見を取りまとめ、会議の円滑な運営に貢献している。</p> <p>また、広島県社会教育委員連絡協議会の理事を務め、県全体の社会教育推進に尽力している。</p> <p>平成21年に発起人として、自ら地域に働きかけ、NPO法人せらマルベリークラブを立ち上げ、10年以上にわたり、里山の生きものの観察等をする里山楽校を年に2回開催し、自然観察や歴史を学ぶ体験活動の機会を提供することで、里山や森林の活用を通じた地域の活性化や、地域住民を対象にした社会教育を精力的に展開している。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
体育・スポーツ	おく だ ゆう こ 奥 田 祐 子 (65 歳)	広島県キャンプ協会 理事 (府中町)	<p>昭和55年以降，広島県キャンプ協会の前身である広島県野外活動協会当時から，42年の長きに渡り，子供を対象としたキャンプ等の自然体験活動の事業を実践している。平成15年からは，「チャレンジ体験スクール」を主宰し，毎年約100名の小中高校生を対象に，「前向きに生きることができる力づくり」を目指して育成・指導している。</p> <p>平成18年以降，広島県キャンプ協会の理事としてキャンプの普及振興を図っている。さらに，公益社団法人日本キャンプ協会の理事を務め，中四国9県の代表者となるなど，名実ともにキャンプ指導者の第一人者として活躍されるとともに，次代を担う多くの後継者を育成している。</p>
地域文化	たな はし くみ こ 棚 橋 久美子 (65 歳)	東広島市 文化財保護審議会 委員 (東広島市)	<p>日本近世・近代史の専門家としての知識や経験を生かし，広島県文化財保護審議会委員を10年間務めた。現在も，東広島市・広島市・竹原市等において文化財保護審議会委員ほか多くの文化財保護関係の委員を務めており，県内で広く文化財保護行政に貢献している。</p> <p>東広島市の文化財として三浦仙三郎の酒造関連資料を指定する際には，調査の実施や指定調書の作成等において主導的役割を担うなど大きく寄与した。また，広島県が実施した広島頼家関係資料に関する史料調査の指導にも携わり，その後，頼家の後継者育成について執筆や講演を行うなど，文化財の保護や調査研究，周知に尽力している。</p>

個人 11 名
(並びは区分(校種)別, 氏名等(五十音順))

令和4年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

(年齢は令和4年12月21日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	かた やま あ き 片 山 亜 紀 (43歳)	東広島市立 郷田小学校 栄養教諭 (東広島市)	<p>栄養教諭として、「食に関する指導」に重点を置き、ICTを活用した教材開発等に熱心に取り組み、児童の食への関心を高めている。</p> <p>令和3年度「ひろしま給食推進プロジェクト」検討会議に参加し、「ひろしま給食」統一メニューのレシピ動画作成及び食育教材作成に尽力し、令和4年度栄養教諭研修において、食育教材動画を活用した授業提案を行った。</p> <p>所属校だけでなく、兼務所属の調理場における供給対象校においても、「食に関する指導」に熱心に取り組み、児童の食事マナーの向上を図り、一定の成果を上げた。</p>
	こう げ ち はる 高 下 千 晴 (48歳)	呉市立 荘山田小学校 教諭 (呉市)	<p>エキスパート研修を受講し、大学院で学んだ社会科の専門性をさらに高め授業改善を進めている。また、研究主任及び小中一貫教育推進コーディネーターとして、学んだことを校内外の職員へ普及させ、職員全体の授業力向上に尽力している。</p> <p>令和4年度、呉市「学びの変革」推進研修会において、「本質的な問い」の考え方を踏まえた社会科の研究授業を行い、子どもの問いを生かした「考える授業づくり」の推進・普及に貢献した。</p> <p>また、広島県小学校社会科教育研究大会でも実践提案を行い、県内に自身の取組を発信した。</p>
	すな ばしり あい 砂 走 愛 (33歳)	三次市立 みらさか小学校 教諭 (三次市)	<p>令和2年度からの2年間、個別最適な学びに関する実証研究事業(EdTechの効果的な活用)の指定を受け、研究主任としてその推進を担い、具体的実践を行いながら組織的な研究体制を構築した。</p> <p>単元別プロジェクト学習に取り組み、児童が課題を見つけ、選択し、解決する単元開発を行い、児童が解決方法を選択し、主体的に学習に取り組める授業づくりの進化に努めている。</p> <p>また、三次市主催の学びの変革推進協議会や、令和4年度広島県主催のマナビノラボにおいて実践発表を行い、県内にその成果を発表し、学びの変革に貢献した。</p>
	やま さき あかね 山 崎 茜 (34歳)	尾道市立 高須小学校 教諭 (尾道市)	<p>令和3年度、小学校における外国語教育指導者養成研修を受講し、学んだことを校内だけではなく、市内・県内に授業提案等を通して還元し、広く普及している。</p> <p>令和4年度、尾道教育研究会外国語活動部会研究部長として、授業提案や資料提供を行い、市内全体の外国語活動の授業改善に取り組んでいる。</p> <p>また、週1回「English Day」を設定し、挨拶や校内放送を英語で行う取組の実施や、年数回、複数のALTを招聘し、「International Day」として英語を使う場を設定するなど、学校全体の英語学習環境作りに大きく貢献した。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	おが しみ ぎ 岡 真 吾 (44歳)	東広島市立 黒瀬中学校 教諭 (東広島市)	令和3年度から「生徒指導サポート実践校」の指定を受け、当該教諭を中心に縦割り活動による学校行事の開催に取り組み、異学年での交流を仕組んだ結果、学年を超えた共感的人間関係が形成され、令和2年度15件あった生徒間暴力が、令和3年度は5件に減少するなど成果をあげた。 生徒指導主事として、学校全体を見ながら、生徒指導体制を組み、個々の教員に対しては具体的に指導方法を指導し、しっかりと生徒理解をしたうえで丁寧な生徒指導を進めるよう、機能的で組織的な生徒指導体制を構築している。
	まつ おが まさ こ 松 岡 雅 子 (51歳)	三原市立 宮浦中学校 教諭 (三原市)	令和2年度不登校等未然防止推進校、令和3・4年度不登校SSR推進校の担当教員として、SSRの運営だけでなく、校内の取組の旗振り役として活躍した。 スクールカウンセラー等と連携し、専門機関と協働する学校体制づくりに尽力するだけでなく、一人一人の生徒やその家庭にあった支援方法を検討し、学校全体の取組として実施した。 不登校生徒数の減少や教室復帰数の増加を目的とするだけでなく、職員全員が生徒を理解し、温かく生徒の課題を受け止める機運を醸成し、他の教職員も積極的に生徒に関わる体制づくりに努めた。 さいたま市教育委員会の不登校支援に係る視察を受け、現任校の取組をもとに、広島県・三原市の不登校生徒支援に係る施策を発表した。
	みぞ べ りょう こ 溝 部 良 子 (51歳)	福山市立 東中学校 教諭 (福山市)	ラウンドシステム先行実施校の担当教員として、授業の研究・実践に取り組んだ。子どもたちが生き生きと考え、関わり合う授業を目指し、一人一人の学習状況を丁寧に見取ること、機を逃さず個への支援や評価を行うことを意識した授業づくりを進めた。 授業では、子どもたちに寄り添い、よく観察することで、子どもたちが悩み苦勞して「分かった」瞬間を見つけた時に、言葉や身振り、表情など様々な方法で肯定的評価のサインを送り、達成感や次への意欲につなげた。 先行実施で得た研究成果を、市内一斉研修で他校の英語担当教員に伝え、市全体の英語科教育推進を牽引した。
	むら かみ より たか 村 上 恵 崇 (47歳)	安芸高田市立 美土里中学校 教諭 (安芸高田市)	広島県国語教育研究大会で小学校、中学校の両校種で実践発表を行い、さらに全日本中学校国語教育研究大会でも実践発表を行った。また、広島県国語教育研究大会では、授業提案を行い、県内へ向けて自身の取り組みを積極的に発信した。 研究主任、教務主任として、組織的な授業改善に取り組んだ。特に、生徒に寄り添う指導と授業改善を一体化させ、校内で取り組む体制づくりに尽力した。令和3年度より、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、研究推進教員として、研究推進地域の研究を中心となって牽引している。

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	ゆきひろまゆ 行 廣 真 由 (40歳)	熊野町立 熊野中学校 教諭 (熊野町)	<p>令和3年度から不登校SSR推進校の指定を受け、SSR担当教員として、在籍する生徒の学習状況や興味・関心、能力等に応じた学習カリキュラムを作成し、自己選択を基本とした多様な学びを取り入れている。傾聴、寄り添いの姿勢をベースに、常に見通しをもって生徒に対応しており、野菜の栽培・販売を行う「野菜プロジェクト」や、教職員の手伝いを行う「れんげサービス」を企画するなど、生徒のふとしたつぶやきを実践につなげ、生徒の自己有用感を高めている。</p> <p>また、広島県SSR推進校連絡協議会等で実践報告を行ったり、定期的に「れんげ通信」を発行したりするなど、SSRの取組等について広く周知し、県全体での成果の共有や普及、SSR運営の更なる充実につなげている。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	あら 谷 忠 勝 (46歳)	広島県立 広島商業高等学校 教諭 (広島市)	商業教育の指導内容・指導方法について変化が求められる中、商業の授業改善にも真摯に取り組み、生徒の主体性を高める指導の工夫を行っている。 硬式野球部の監督として、高校野球を通して、主体的に行動できる生徒を育成しており、適切な活動時間や休養日を設定し、生徒が設定した高い目標を実現させるため、専門的な指導力を発揮した。その結果、令和元年度には15年ぶり23度目の全国高等学校野球選手権大会、そして、令和3年度には20年ぶり22度目の選抜高等学校野球大会へとチームを導いた。
	お 小 澤 圭 介 (48歳)	広島県立 吉田高等学校 教諭 (安芸高田市)	前任校では、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業（論理的思考）において、論理的思考力及び表現力の育成を図るための指導と評価の工夫改善について研究を行った結果、授業における質問が増加したり生徒が積極的に議論に参加したりするようになるなど、生徒の様子に大きな変容がみられた。 現任校では、探究科主任として「探究型学習」の中核を担っており、地域を支えていく人材の育成を図るため、探究課題の解決を通して資質・能力の向上を図る地域協働教育カリキュラムの開発に取り組んでいる。
	か 加 藤 賢 一 (48歳)	広島県立 安芸府中高等学校 教諭 (府中町)	国際科主任として、様々な取組を企画・運営する原動力となっている。特に、幅広い人脈を活用し、関係機関や地域と連携を行い、様々な取組を実現するとともに、学校の取組を広く広報するなど教育活動及び広報活動において、力を発揮している。 教育研究部の副主任として、各教科で適切な評価が行われるよう、観点別評価に係る校内研修を実施し、指導と評価の一体化を進めるなど、学校全体の教育活動の充実に大きく貢献している。
	しもこうろ もと なり 下高呂 元 成 (49歳)	広島県立 尾道北高等学校 教諭 (尾道市)	平成30年度及び令和元年度の広島県科学オリンピックにおいて、指導した生徒が銀賞を受賞した。 教育研究部主任として、学校全体の授業改善を主宰し、計画・実践に精力的に取り組むとともに、探究活動を通じて生徒の実験・観察技能や思考力・判断力等の育成に取り組んだ。その結果、令和3年度、生徒が広島県科学オリンピックにおいて、県立学校で初めてとなる金賞を受賞し、全国大会である科学の甲子園への出場へ導くなど、学校全体の授業改善の中心として、教育活動の充実に大きく貢献している。

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	たか た かず み 高 田 和 美 (50歳)	広島県立 福山誠之館高等学校 教諭 (福山市)	<p>「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校主担当者として、ルーブリック評価の研究開発・活用を通して、所属校の学習評価の工夫・改善を図った。また、主体的・探究的に学ぶ生徒を育成するため、研究開発したルーブリックを用いた授業づくりを先導するとともに、全教職員へ研究成果を還元した。</p> <p>持続可能な開発のための教育(ESD)において、社会の一員として身近な場所から自分に関わる問題として課題を発見し、持続可能な社会づくりに取り組むことのできる生徒の育成に向けたカリキュラム開発に取り組み、令和元年度第6回広島県ユネスコESD大賞の受賞に導いた。</p>
	まつ しま かおり 松 島 かおり (46歳)	広島県立 呉南特別支援学校 教諭 (呉市)	<p>聴覚障害教育の指導方法等において、専門性を発揮するとともに、聴覚障害教育の専門性向上のため、若手教職員の指導にあたるなどしている。</p> <p>平成19年度全日本聾教育研究大会において、「ろう学校における専門性をふまえた国語科の授業づくり」をテーマに実践事例発表を行い、その研究成果を学校全体に波及させた。</p> <p>低学年から高学年まで、幅広い年齢や様々な障害のある児童の指導に当たっており、一人一人を伸ばす指導により保護者の信頼を得ている。</p> <p>教研式読書力診断検査、コミュニケーションの状況等、聴覚障害教育に必要な実態把握の実施スキルを有しており、他の模範となる実践を行っている。</p>
体育・スポーツ	なか しま けん た 中 島 健 太 (40歳)	学校法人進徳学園 進徳女子高等学校 教諭 (広島市)	<p>平成22年から進徳女子高等学校に勤務し、13年間卓球部監督として熱心な指導を続けており、令和4年度全国高等学校総合体育大会卓球競技学校対抗第3位になるなど、各種大会において優秀な成績に導いている。</p> <p>また、平成28年度からは、国民体育大会卓球競技少年女子の監督を務めており、第74回・第77回大会では第5位に入賞するなど、本県卓球競技の競技力向上に貢献しており、今後の活躍が益々期待される。</p>

令和4年度広島県教育奨励賞受賞者

○団体

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	<p>廿日市市立宮園小学校 校長 <small>なかに</small> 中谷 <small>かずし</small> 一志 (廿日市市)</p>	<p>「自分を育て みんなで伸びる」の学校教育目標のもと、令和2・3年度、県教育委員会「個別最適な学びに関する実証研究事業」の指定を受け、児童自らが選択・決定しながら多様な学びを進める自由進度学習に組織的に取り組み、主体的に学ぼうとする意欲の向上等に成果を挙げた。</p> <p>令和4年度には、県教育委員会主催の指導主事を対象とした研修会及び教職員を対象とした「個別最適な学びに関する教職員研修」における授業公開をはじめ、文部科学省や県内外の大学・教育委員会・教職員等の視察を積極的に受け入れるなど、その先進的な取組を県内外に広く発信し、個別最適な学びの推進と普及に多大な貢献を行った。</p>
	<p>福山市立藤江小学校 校長 <small>いげさわ</small> 池澤 <small>かおり</small> 香緒里 (福山市)</p>	<p>児童にとって必要感のある学びの創造を目指し、児童の認知を培う要因に対し科学的なアセスメントを図り、ICT等を効果的に用いた授業づくりについて継続的に研究に取り組んでいる。</p> <p>認定を受けているユネスコスクールの趣旨にも学び、生活科・総合的な学習の時間における児童の課題意識を起点とした学習活動を柱に、地域理解や自己の生き方に関わる学習を行っている。地域探検や伝統産業、防災、歴史等について、フィールドワークや見学、聞き取り等で調べたことを、児童が多様に発信すると共に、児童会活動として引継ぎ、生活を創り出す意欲を高めた。</p> <p>令和4年度広島県連合小学校長会教育研究大会では、児童の姿を中心に据えて学び合う研修の具体として実践発表を行った。</p>
	<p>尾道市立高西中学校 校長 <small>はまもと</small> 濱本 <small>かよみ</small> かよみ (尾道市)</p>	<p>特別活動では、キャリア教育の充実に向け、自己の学びを振り返るためのキャリアログ「学びの地図」の作成や様々な分野で活躍する方々の生き方に触れる機会「生き方ナビゲーション」の設定等により、生徒の自己実現力が着実に向上している。</p> <p>また、生徒が学級の課題を分析し、課題解決に向けて話し合う「学級力向上プロジェクト」を通して、生徒による自治的風土を高め、自己決定力や自己有用感を育成している。</p> <p>令和4年度は、特別支援学級支援プロジェクト指定校として、特別支援学級の授業改善を主軸とした個別の支援が必要な生徒に対する指導・支援の充実を図っている。</p> <p>これらの取組が「マナビノラボ」で紹介されるなど、県内の特別支援教育に係る授業改善に貢献している。</p>
	<p>広島県立佐伯高等学校 校長 <small>おの</small> 小野 <small>ひろゆき</small> 裕之 (廿日市市)</p>	<p>生徒自らの興味・関心を基に課題を見つけ、自由にアイデアを出しながら仲間と協働して課題の解決を目指す「SAEKI QUEST」の充実を図っている。この中で、令和3年度以降、地域の特産品を活用した商品開発、学校や地域の魅力発信、地域の高齢者の生活利便性向上など、地域と連携した特色ある教育活動を展開しており、学校で定めた資質・能力を育む教育活動を推進している。</p> <p>特色ある部活動として、令和4年度のインターハイにおいて男子団体3位入賞を果たしたアーチェリー部に加え、女子硬式野球部が、地元廿日市市からの支援も受けながら活発に活動している。創部8年となる同部は、「地域活性化×女子野球の普及」を使命とし、野球を通じた人材育成を進めており、練習メニューの考案、広報活動など、選手が自分たちで考え行動する選手主体の組織運営に取り組んでいる。また、地域への貢献活動も選手自らが企画し、地域住民の手伝いや公共施設でのボランティアなどを積極的に行っている。</p>

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校	広島県立広島工業高等学校 校長 吉村 薫 (広島市) 広島県立福山工業高等学校 校長 神田 浩二 (福山市) 広島県立呉工業高等学校 校長 朝倉 一隆 (呉市) 広島県立宮島工業高等学校 校長 青木 靖樹 (廿日市市)	<p>令和2年度から令和3年度にかけて、工業高等学校4校の教員が協力して、生徒の主体的で協働的な学習を促すプロジェクト学習の要素を取り入れた学習プログラムを開発するとともに、工業教育のアップデートを図るコアカリキュラムの策定を行い、このプログラムによる実践を進めている。</p> <p>今後もこの取組を軸としながら、学科、教科・科目等横断的な取組を推進していくことが期待できる。</p> <p>工業高等学校4校以外の工業科及び工業系列を設置している学校に対しても、工業部会や各種研修会にて取組を共有するとともに、他の専門学科を有する学校と連携を図っている。</p>
教 育	竹原市立吉名学園 校長 亀井 伸幸 (竹原市)	<p>各学年で身に付けるべき ICT 活用力やプレゼンテーション力を系統的に整理するとともに、地域資源や地域の人材を効果的に活用した学習活動と ICT 活用力やプレゼンテーション力を組み合わせた特色あるカリキュラム「YOSHINA 未来学」を作成し、社会に開かれた教育課程の実現を目指した取組を進めてきた。</p> <p>また、地域実態に基づき、SDGs 等のグローバルな視点への発展を企図した研究を進めている。</p> <p>令和4年度は学習者起点の学びの一層の充実を目指し、児童生徒にとってより必然性のある課題解決型の学習への改善や、評価の検証による指導と評価の改善により、カリキュラムの更なる充実に取り組んでいる。</p> <p>これらの取組について、県内外の学校や教育委員会の視察を受けるなど、研究の普及に努めている。</p>
地 域 文 化	蔵王はね踊り保存会 (福山市)	<p>福山市で伝えられていた「はねおどり」の一部である「蔵王のはねおどり」を、昭和48年に町全体の文化として存続すべく「保存会」が結成された。</p> <p>平成2年には、大人だけの踊りであった活動を、将来を見据え永続的に保存・継承するために、会員を小学生にまで広げた。現在も、小学校の総合的な学習の時間の一環として、後継者の育成のために保存会が指導している。</p> <p>平成6年以降は、対外的な活動として、全国の郷土芸能大会等に積極的に参加し、技量の向上、郷土文化の周知にも努めてきた。</p> <p>平成20年には県の無形民俗文化財に指定され、その活動は地域伝統文化の保存と継承、地域の活性化に貢献している。</p>

個人 16 名 7 団体
(並びは区分(校種)別, 氏名等(五十音順))